



Twitter



YouTube

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 265

2024

2.21

鳥羽小学校第5回学校運営協議会 「鳥羽地域における共助の在り方」



2月15日(木)に鳥羽小学校第5回学校運営協議会が開催されました。鳥羽小学校の学校運営協議会では各回テーマを設定してミニ熟議をおこなっています。今回は防災をテーマに明石南高校の「明南ジュニア防災(Team3A)」による5年生を対象にした防災教室に参加したあと、「明南ジュニア防災(Team3A)」のみなさんと対話をしようと計画されたものです。「明南ジュニア防災(Team3A)」は、地域防災に関心のある生徒が集まった生徒たちが運営する自主防災組織です。「ぼうさい甲子園」等に参加するだけでなく、こうした地域とのつながりを深めていく活動もおこなっています。

まず5年生3クラスでアイスブレイク的に防災について子どもたちが知っていることを引き出したあと、「もし、地震が起きたら、避難所では、どんなことが困るか?自分たちにできることは何か?」についてワークショップ形式で子どもたちの対

話がおこなわれました。

高校生の進行はとても新鮮で、子どもたちがすごく自然にワークショップに入り込んでいました。これからこうした場をコーディネートしていくことが求められてくるのではと感じました。

ワークショップには学校運営協議会の委員さんも入られ、子どもたちからどんどん意見を引き出す役割だけでなく、実際に震災を経験された委員さんからはその時の経験や思い等を語られ、子どもたちが聞き入っている姿がとても印象的でした。これから阪神淡路大震災の経験が風化するなかで、こうしたいろいろな世代が集まった対話は価値があるのではと感じました。今回はワークショップでの対話がゴールでしたが、こうしたワークショップをきっかけに自分たちで考えた防災を発信する活動などへ、デザイン次第ではまだまだ深まり、広がっていく可能性がある提案だったと思います。

また、ワークショップをおこなう子どもたちが、記録として模造紙に書き込んでいく、アナログ的な作業と、すぐにタブレットで調べてみるデジタル的な作業がすごく自然で、タブレットが導入されて数年の間に確実に子どもたちの学びのスタイルが変わってきていると感じました。そうしたことは参加された学校運営協議会の委員さんだけでなく、高校生のジュニア



リーダーさんたちが、「タブレットをみんなもってるん？みんなつかえるの？」とびっくりしている姿も時代の変化のスピードを感じさせられる場面でした。

ワークショップの後は、高校生のジュニアリーダーさんと学校運営協議会の委員さんと振り返りを兼ねての対話がおこなわれました。そこでテーマになったのが「共助」です。いざという時に「共助」が力を発揮するためには、こうした対話の積み重ねがベースになると思います。そのためには、防災にかぎらず自分たちの“まち”について子どもたちや地域の方々が共に対話をする機会を増やす事が大事だと改めてこの活動をみながら感じました。



鳥羽小学校の学校運営協議会でのテーマを決めて、子どもたちの活動に参加しながらの対話を進めていくスタイルは学校運営協議会の在り方を考える参考になるのではと考えます。

そして、保護者のみなさんや地域のみなさんに子どもたちと一緒に学ぶ機会をもっといただくことは保護者や地域のみなさんだけでなく、教職員の「社会に開かれた教育課程」や「これからの学び」の具体的なイメージを共有できることにつながっていくのではと考えます。

こんなボランティアもありですね

2月9日に行われた『HAYASHI 井戸端会議』。教職員と保護者、地域の方々で林校区と林小について語り合いました。いろいろな話をしながら、学校と保護者・地域が良い方向に向けて、一緒になって進んでいけるような、あたたかい会議となりました。今後も開催できるように願っています。

引用) 林校区まちづく協議会公式 LINE

コミスク便りでも時々紹介させていただいている林校区まちづくり協議会さんの公式 LINE に、2月9日に開かれた「HAYASHI 井戸端会議」がアップされましたので紹介させていただきます。地域の方に「HAYASHI 井戸端会議」があたたかく受け止めていただいているのが伝わってきて、ありがたいです。このように、地域に発信していただくことが「HAYASHI 井戸端会議」を充実させていくことにつながっていくと感じました。

また、公式 LINE で情報発信をされている林校区まちづくり協議会さんが今度はInstagram

もスタートされました。そしてInstagramを始めただけでなく、Instagramへの「投稿ボランティア」さんを募集されています。林校区の日々を切り取り発信する記者であり、フォトグラファーみたいな感じでカッコいいですね。この記事を見て、こんなボランティアもありなんだと、広報部さんの柔軟な発想に刺激をいただきました。ひょっとしたら、小学生や中学生、そして高校生も応募するかもしれないと勝手に想像してしまいました。どんな情報がこれから発信されるか楽しみです。早速フォロワーになりました。もし他の校区のまち協さんでもInstagram等での情報発信されているようでしたら、情報をいただけたらとおもいます。よろしくお願いします。

(文責：北本)